

1. 景観を捉えるための基礎知識

(1) 景観とは

景観とは単に物理的なものの眺めだけではありません。景観が成立するためには、「人が見る」ということが必要です。つまり、物理的なものの眺め(=景)を人間が感じること(=観)によって成立します。

良好な景観とは単に「きれいな物理的眺め」ではなく、見る人が「良好と感じる眺め」であることが必要なのです。大自然の眺望の中にいかに優れたデザインの建築物が建っていても、見るものが大自然の眺望を望んでいれば、その建築物は良好な景観を阻害する要因となるのです。景観とは物理的な眺めと見る側の相互の関係で成り立っているのだということに留意しておく必要があります。

(2) 景観の構成要素

① 緑

緑は自然の豊かな地域の景観では、ほとんどの場合に主要な景観構成要素として存在します。

緑は景観の背景となることも多いですが、新緑や紅葉の時期には景観の主体となり、地域の特徴を表現する重要な景観構成要素となります。

また、施設外構の植栽は施設主体の景観に潤いを与える要素として、また景観的な阻害要因を和らげる重要な役割を果たします。



② 水

水は、大きな広がりを持つ場合は景観の背景となることありますが、その変化に富む表情から、景観の主体と感じられることも多くあります。

特に特定の方向に眺望が開けている場合は、眺望の対象として重要な役割を果たします。



③建築物、工作物等

建築物、工作物等は自然景観や、周囲の町並みを背景として、景観の主体となることが多く、特に歴史や文化等を強く表現する景観構成要素です。

また、単体としてだけでなく、複数で集落や町並み等として景観の主体となり、遠景におけるビル群などであれば背景ともなります。



④季節の移ろい

季節の移ろいは、自然景観では特に重要で、季節の変化に伴い、景観は大きく変化します。季節の移ろいには、地域の気候と植生が大きく影響します。

青森県内では冬季には「雪化粧」された景観が地域の大きな特徴となり、春や夏には水田や牧草地の緑が映え、山々に花の咲く景観となります。秋には紅葉が山肌に映える景観も生じます。これらの季節毎に現れる景観も地域の景観を構成する要素となります。



⑤お祭りやイベント

お祭りやイベントは、地域の最も「ハレ」の姿と言えます。いつもは静かな町でもお祭りやイベントの時は、地域が隠し持っていた人々の個性や文化、歴史の表情が強く現れ、個性的な景観を創り出します。

これらの非日常的な要素も地域の個性ある景観を構成する要素となります。



(3) 景観資源

景観を構成する景観資源は点、線、面という形態や、自然系、歴史・文化系、生活・産業系、眺望系という質によって分類することができます。これは分類の一例ですが、景観資源を表で分類したり、分布を図で整理することにより、地域の景観の特徴を捉えやすくなります。

また、お祭りやイベントなど図化することが難しいものは、表により整理しておくことも考えられます。

■表－主な景観資源の例

	点	線	面
自然系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山頂 ・ 池、島 ・ 大木、高木 ・ 天然記念物 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稜線 ・ 河川、海岸線 ・ 山裾の樹林地境界 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平地、台地 ・ 大きな湖沼、海 ・ 広がりを持つ樹林地や農地
歴史・文化系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な寺社、歴史的建造物 ・ 遺跡、史跡 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的町並み(街道沿い等) ・ 街道 ・ 掘割り、運河 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的町並み(城下町等、面的な広がりを持つもの)
生活・産業系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な公共施設 ・ 交通ターミナル ・ 主な橋梁 ・ 主な公園 ・ 特徴ある大規模施設 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幹線道路 ・ 通りに沿った商店街 ・ 鉄道 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地開発事業区域 ・ 中心商業地 ・ 工業地
眺望系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視点場(展望台等) ・ ランドマーク ・ アイストップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビスタ ・ シークエンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パノラマ

■表－お祭りやイベントの例

歴史・文化系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神社・寺院等の祭礼、祭事等 ・ その他の歴史的行事
生活・産業系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花祭り、夏祭り、雪祭り、紅葉狩り等

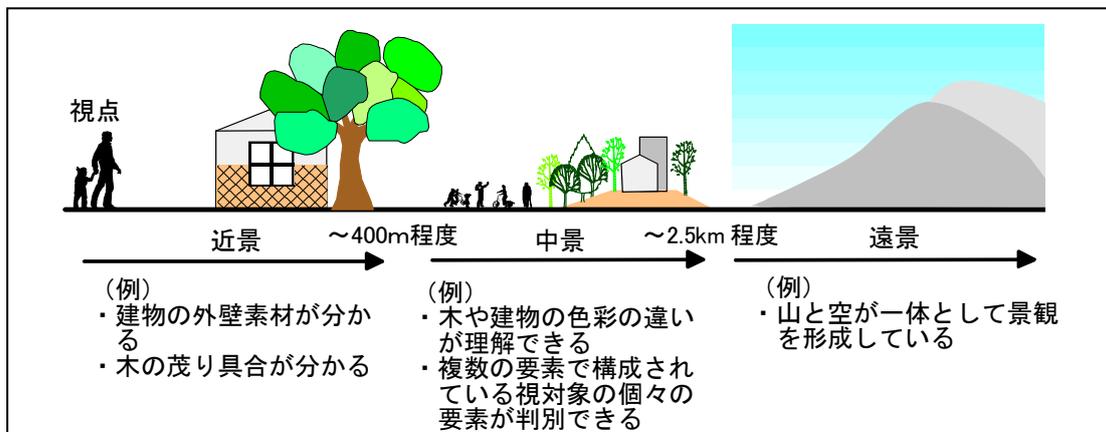
(4) 景観の捉え方

視点（人間）と視対象（見る対象）の関係から、「近景・中景・遠景」という距離による景観の見え方の違いによる景観の捉え方と、視点場の種類や眺望の構造による「視点場と眺望」という2種類の景観の捉え方を示します。

①「近景・中景・遠景」（距離による見え方の違いによる景観の分類）

視点を固定させ、視対象の見え方の変化を区別して景観を捉えると、近景・中景・遠景に区別することができます。下の図におよその距離を示していますが、「近景・中景・遠景」は、単純な距離的な区別ではなく、その景観の見え方の違いによる区別です。

■図一近景・中景・遠景の説明図



○近景

近景は、視対象の意匠や素材、表面の仕上げを理解することができ、構成要素の動きなどを理解することができる程度の景観です。例としては、木々の葉の茂り具合や桜の咲き具合まで確かめられる状態であり、建物であれば、その建物の外装の種類までも理解できる状態といえます。

○中景

中景は、視対象自体に明暗や色彩の違いを認識することができ、視対象自体の形態や意匠、動きや構成要素の配置等を理解できる程度の景観です。例としては、重なり合う山々の山肌の違いや植生の違いによる色彩の違いや、複数の建物の壁面、屋根の形態や色等により構成された町並み等がこれに該当します。

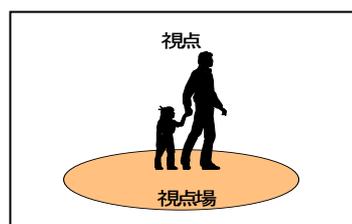
○遠景

遠景は、視対象と背景が一体となって見える景観で、視対象と背景とのコントラストや視対象のアウトラインによって構成される景観です。したがって、施設の配置や規模、形態といった要素が重要となってきます。例としては、遠く離れた山並みや海に浮かぶ島影、ビル群への景観があります。これらの景観では、空と山や島、ビル群が明暗のコントラストによって区別され、山や島の稜線やビル群のシルエットが形作るラインが明確な形態として意識されます。

②「視点場と眺望」(視点場の種類と眺望の構造による景観の分類)

a. 視点と視点場

視点場とは視点が位置する場所のことです。視点は景観を見る人間自体であり、視点場は視点である人間が位置する場所を指します。



b. 移動する視点場からの眺望

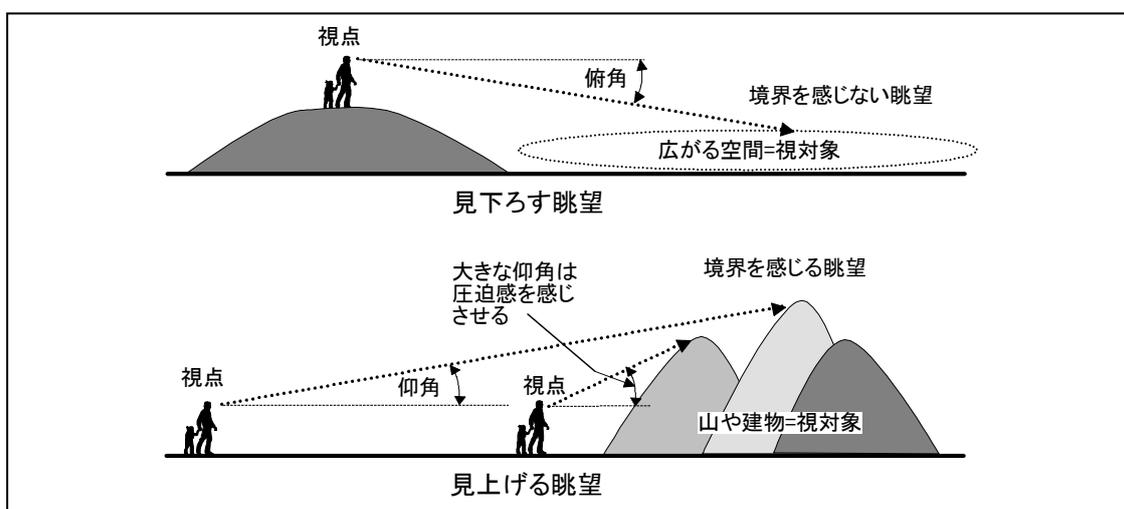
この視点場には、展望台のように固定したものもあれば、車両等の移動するものもあります。固定した視点場からの眺望には広がりを持つ眺望(パノラマ)や、強い方向性を持つ眺望(ビスタ)があり、移動する視点からの眺望は連続して変化する眺め(シークエンス)と言う特徴があります。

c. 「見下ろす」眺望と「見上げる」眺望

眺望には上から下へ「見下ろす」眺めと、下から上へ「見上げる」眺めがあります。一般的に「見下ろす」眺めには、眺める範囲の境界が不明瞭で区切ることが難しいという特徴があり、空間の広がりを強く認識することができます。

「見上げる」眺めには、背景となる空と対象物により明瞭な眺める範囲の境界が認識され、区切られた空間や眺望の対象物を強く認識することになります。また、「見上げる」角度がある程度以上になると圧迫感を感じるようになります。

■図一「見下ろす」眺望と「見上げる」眺望の説明図



■図一「見下ろす」眺望と「見上げる」眺望の説明写真



○見下ろす眺望の事例
山頂から山麓へ見下ろし、地平線まで広がりを感じる景観



○見上げる眺望の事例
低地からランドマークとなる山を見上げ、眺望の対象物を強く感じる景観

(5) 建築物や工作物をつくる行為における景観上の配慮項目

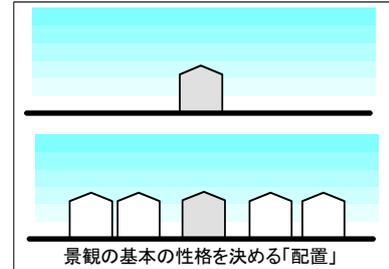
上記、(1) から (4) までの基礎知識は、現況の景観を把握するための知識ですが、実際には、景観は人間の行為によって大きく変化していきます。この行為の中で大きな影響を与えるものが、建築物や工作物をつくる行為です。

ここでは、景観に大きな影響を与える、建築物や工作物をつくる行為のどのような点が景観を創っていく上で重要なのかを説明します。

① 配慮項目の説明

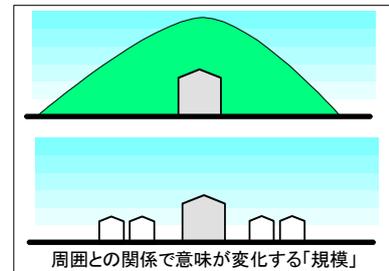
ア. 配置＝敷地の設定

敷地の設定は、どこに人工物を設置するかということであり、遠景、中景で重要な構成要素です。景観の基本を決定する要素です



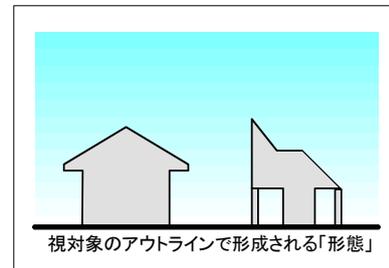
イ. 規模

規模は、背景となる要素や周囲の要素との比較により意味を持ちます。基本的に遠景、中景で重要な構成要素で、周囲や背景と比較して十分大きければ、視線が集中します。



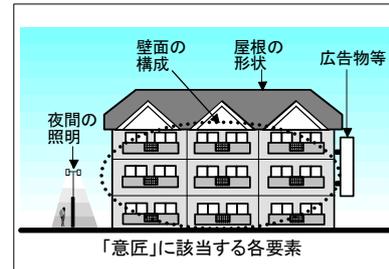
ウ. 形態

形態は、視対象のアウトラインによって形成されます。遠景、中景、近景で重要な構成要素で、周囲や背景と大きく異なった形態を持つと、周囲から際立った景観要素となります。



エ. 意匠

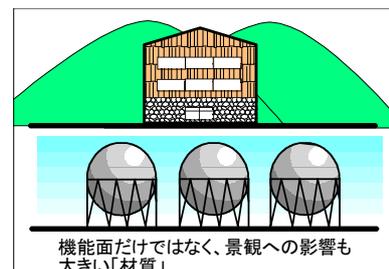
意匠は、文化や歴史等を感じさせたり、視対象の機能を表現する要素となります。中景、近景で重要な構成要素で、意匠には、屋根の形状や、壁面の構成、広告等の付属物等も含まれます。また、夜間の照明も意匠に含まれます。



オ. 材質

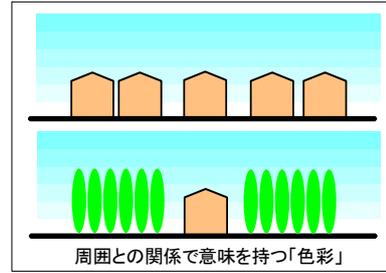
視対象が、どのような素材でできているかによって、周囲との調和が図られたり、逆に損なわれたりします。

また、材質によって美しさを表現することもでき、近景で重要な構成要素です。



カ. 色彩

色彩は、視対象を周囲と区別したり周囲との調和をもたらす機能や、美しさや賑わいを演出する機能を持ち、中景、近景で重要な構成要素です。



■図一色彩豆知識 (出典：青森県景観色彩ガイドプラン)

色のコミュニケーション(色を的確に伝えるために)

赤や黄色、緑、ベージュ、グレーと色を言葉で表しても、相手に自分の思う色が正しく伝わることは、まずありません。

一般的に“赤”といっても、

- 鮮やかな赤、 ● 暗い赤
- じみな赤、 ● 明るい赤

などこれ以外にもたくさんあります。ですから色を正確に伝えるためには、言葉だけでなく、必ず“色票(色見本)”や“マンセル値”を用いて表します。

マンセル値(表色系)では、色は色相、明度、彩度の3つで表されます。3つすべてを持っているものを有彩色、色あいがなく、明度だけ持っているものを無彩色(N:Neutral)といいます。

「色相」……色あい、色味の違い(Hue)。とは

- 赤(R)・黄赤(YR)
- 黄(Y)・黄緑(GY)
- 緑(G)・青緑(BG)
- 青(B)・青紫(PB)
- 紫(P)・赤紫(RP)

*記号はアルファベット読みです。

の10色相が等間隔に配列され、右上の図の「色相環(色あい)」のように、連続した円環になります。

「明度」……明るさの度合(Value)。明度0で表される理想の黒から、明度10の理想の白までの間を等間隔に10に分割されます。実際に使う色は、1~9.5の範囲で表されています。

「彩度」……色の鮮やかさの度合。色味を持たない彩度0の無彩色(白・黒・グレーなどの色)から、各色相の純色に向かい鮮やかさにしたがって、数値化されています。

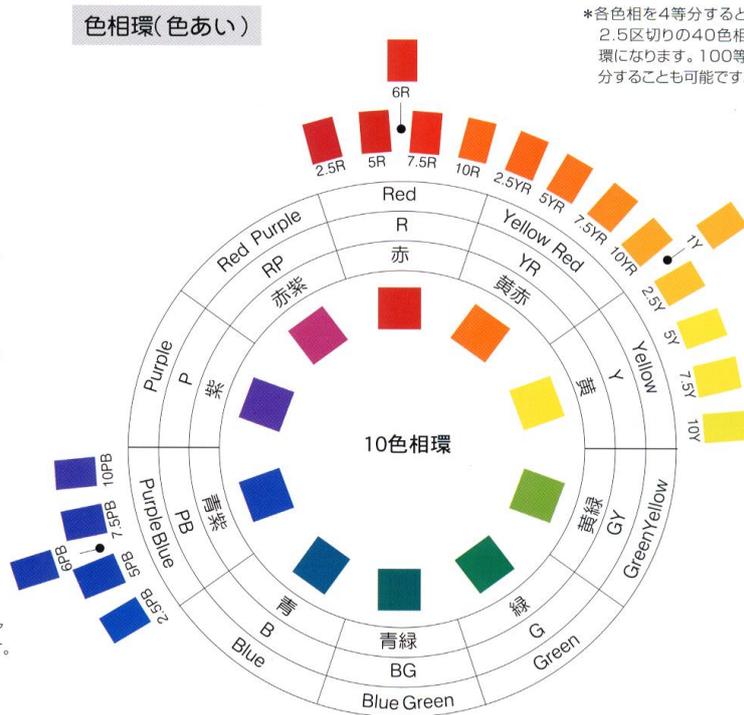
マンセル値の「書き方」と「読み方」

色相、明度、彩度の順で表記します。

この鮮やかな赤は…
色相 明度 彩度
5R 4/16
ゴアール ヨンのジュウロク

このおだやかなベージュは…
10YR 7/1.5
ジュウワイアール ナナのイチテンゴ

色相環(色あい)

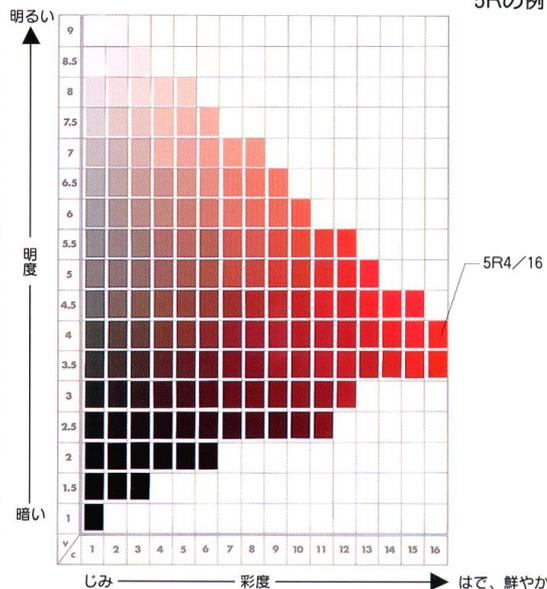


*各色相を4等分すると2.5区切りの40色相環になります。100等分することも可能です。

無彩色



色相面(5Rの等色相面)



②建築物や工作物をつくる行為における景観上の配慮項目と「近景、中景、遠景」との関係

建築物や工作物をつくる行為における景観上の配慮項目が、景観の捉え方のところで説明した「近景、中景、遠景」のどの段階で重要なのかについて、表にまとめました。

■表一 建築物や工作物をつくる行為における景観上の配慮項目と「近景、中景、遠景」との関係

			遠景・中景・近景での重要性		
			近景	中景	遠景
建築物や工作物をつくる行為における景観上の配慮項目	配置＝敷地の設定	施設をどこに置くかと言うこと。景観の基本的な構造を決める項目		○	○
	規模	施設の高さや幅など、背景や周囲との比較関係により意味を持つ項目		○	○
	形態	視対象となる要素のアウトラインで形成される項目	○	○	○
	意匠	文化や歴史を感じさせ、視対象の機能を表現する項目	○	○	
	色彩	視対象を周囲と区別する機能や、周囲との調和をもたらす機能、美しさ、賑わいを演出する機能を持つ項目	○	○	
	材質	自然物、人工物を判別する機能や周囲との調和をもたらす機能、美しさを演出する機能をもつ項目	○		

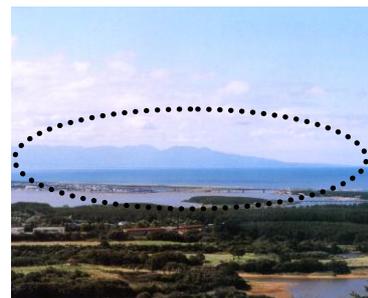
■図一 近景・中景・遠景の写真説明



○近景の事例
建物の仕上げや材質が理解できる景観



○中景の事例
多くの建物で市街地の眺めが形成されていることが理解でき、屋根の色等で個々の建物が区別できる景観



○遠景の事例
山の稜線がシルエットとして浮かび上がり、山々の重なりが濃淡で理解できる景観